

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】令和 5 年 1 月 10 日(2023.1.10)

【公開番号】特開 2022-43576(P2022-43576A)

【公開日】令和 4 年 3 月 16 日(2022.3.16)

【年通号数】公開公報(特許)2022-047

【出願番号】特願 2020-148914(P2020-148914)

【国際特許分類】

H 0 1 R 12/77(2011.01)

10

【F I】

H 0 1 R 12/77

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 12 月 22 日(2022.12.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【0 0 0 8】

【図 1】図 1 は、実施例 1 の第 1 コネクタの斜視図である。

【図 2】図 2 は、第 1 コネクタの側面図である。

【図 3】図 3 は、第 1 コネクタの平面図である。

【図 4】図 4 は、第 1 コネクタの分解斜視図である。

【図 5】図 5 は、第 2 コネクタの上側から見た斜視図である。

【図 6】図 6 は、第 2 コネクタの下側から見た斜視図である。

【図 7】図 7 は、第 2 コネクタの断面図である。

【図 8】図 8 は、フレキシブルプリント基板に第 1 固定部および第 2 固定部が取り付けられた状態をあらわす側面図である。

30

【図 9】図 9 は、図 8 に示す状態のフレキシブルプリント基板に保持部が取り付けられた状態をあらわす断面図である。

【図 10】図 10 は、図 8 に示す状態のフレキシブルプリント基板に保持部が取り付けられた状態をあらわす斜視図である。

【図 11】図 11 は、図 9、図 10 に示す状態のフレキシブルプリント基板を折り曲げて作製した第 1 コネクタの断面図である。

【図 12】図 12 は、第 2 コネクタに第 1 コネクタを組み付けた状態をあらわす斜視図である。

【図 13】図 13 は、第 2 コネクタに第 1 コネクタを組み付けた状態をあらわす断面図である。

40

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 6】

[本開示の実施形態の詳細]

[実施例 1]

本開示のフレキシブルプリント基板の接続構造を具体化した実施例 1 を、図 1 ~ 図 13 を参照して説明する。本実施例 1 において、上下の方向については、図 1 , 2 , 6 ~ 8 ,

50

1 2 , 1 3 にあらわれる向きを、そのまま上方、下方と定義する。前後の方向については、図 1 ~ 1 3 にあらわれる左方、右方を、それぞれ前方、後方と定義する。左右の方向は、幅方向と同義であり、図 1 , 2 , 4 , 6 ~ 1 3 にあらわれる前方、後方を、それぞれ右方、左方と定義する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 2】

10

支持部 4 0 は、図 2 に示すように、第 1 構成部 3 1 の裏面 3 1 B と第 2 構成部 3 2 の裏面 3 2 B とを対向させるように、フレキシブルプリント基板 2 0 を折り曲げた状態で支持している。第 1 構成部 3 1 の裏面 3 1 B と、第 2 構成部 3 2 の裏面 3 2 B とが固定部 4 1に接触している。折り曲げ部 5 4 と折り曲げ部 5 8 は、上下方向に沿って接触している。第 1 構成部 3 1 の引掛け部 5 6 は、図 3、図 1 1 に示すように、第 2 構成部 3 2 の板部 5 7 における左右方向の端部に引っ掛かっている。これにより、第 1 構成部 3 1 の裏面 3 1 B と第 2 構成部 3 2 の裏面 3 2 B との対向状態が維持される。図 2 に示すように、第 1 構成部 3 1 の板部 5 3 の板面と、第 2 構成部 3 2 の板部 5 7 の板面は、平行になっている。第 1 構成部 3 1 の表面 3 1 A と、第 2 構成部 3 2 の表面 3 2 A は、平行になっている。

20

30

40

50